

平成 26 年度 JICA コミュニティ防災研修(B)  
- JICA Community Based Disaster Risk Management(B)-



研修期間：平成 26 年 10 月 14 日～11 月 21 日  
(6 週間)

研修場所：神戸市/宮城県/岩手県/東京都/和歌山県

研修内容：参加研修員の自国のコミュニティにおける、  
自然災害に対する防災活動推進方法の習得  
に関する講義/視察

参加研修員：14 ヶ国 19 名(アフガニスタン (2)、アン  
ティグアバーブーダ(1)、アルメニア(1)、  
ブルンジ(1)、フィリピン(2)、ガーナ(1)、  
グアテマラ (1)、ホンジュラス (1)、ミャンマー (4)、ニカラグア (1)、スーダン  
(1)、東ティモール (1)、ベネズエラ (1)、ドミニカ (1))



研修最終日：閉講式にて

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、神戸市消防局と協力のもと、「コミュニティ防災(B)研修」を実施しました。この研修は、世界中から参加希望が多く寄せられたため、昨年度から 1 年に 2 回実施運営しており、今年度は 6 月の「コミュニティ防災(A)研修」に引き続き 2 回目です。

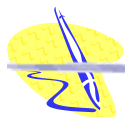
本研修は、自然災害に対する防災の重要性、中でも住民主体の自主防災組織を通じた地域コミュニティの防災力向上について学ぶことを目的としています。研修では、神戸における取組みの代表的な例として「防災福祉コミュニティ<sup>1</sup>」(以下、防コミ)を取り上げました。防災福祉コミュニティでは、メンバーによる日ごろの地域活動で培われた団結力や訓練などで学んだ防災知識を災害時にも活用できることを目指しています。災害緊急時には行政による「公助」を待つのではなく、自らの命を守る「自助」、住民が互いに助け合いながら自分達の地域の安全を守るという「共助」が何よりも重要となるからです。今や神戸市の全域で、この「防コミ」による防災活動が行われています。

本研修では、自然災害に対する防災の重要性、中でも住民主体の自主防災組織を通じた地域コミュニティの防災力向上について学ぶことを目的としています。自国で住民全体の防災活動を推進する立場にある 14 か国の中央ならびに地方の行政官を迎え、6 週間の研修を行いました。

研修員は、「防コミ」を中心に神戸市が取り組む防災教育システムや市民向けの防災普及の取組みを学び、市外の視察先として、東日本大震災で被害を受けた岩手県・宮城県、および伝統行事を通じて教訓継承を行う和歌山県広川町を訪問しました。研修最終日には、滞在中の講義・視察を通じて考察した自国のコミュニティ防災のあり方、市民への普及促進策

<sup>1</sup>：防災福祉コミュニティは阪神・淡路大震災の教訓をもとに生まれた神戸市独自の防災取組みであり、小学校区ごとに結成された住民組織です。安全で(防災)安心して(福祉)暮らせるまちづくりをめざし、防災活動や福祉活動に取り組んでいます。

について内容発表を行いました。



### ～研修を振り返って～

今回、研修冒頭では活発に活動されている長田区の「防災福祉コミュニティ」の訓練に参加させていただきました。幅広い年齢層のメンバーの皆様が掛け声をかけながら訓練されている様子を見学し、その後訓練に参加させていただきました。自主防災組織が定期的に訓練し、住民同士の交流もさかん、かつ防災に対する認識の高さに研修員たちも大変感心していました。阪神大震災で得た教訓を基に、住民ひとりひとりが「自分たちの命を自分たちで守る」という意識で日ごろから取り組まれている様子や、緊急時において、地域の住民が貴重な戦力となることは「防コミ」を自国で普及促進するという研修員たちには強いインパクトとなったと思います。他にも、垂水区の防コミ訓練に参加し、研修員の国で実際に行われている防災教育を日本の子供たちにも披露し、交流を深めました。近年、世界各地で多発している自然災害において、事前の認識が被害の拡大を防ぐことができる防災教育の重要性が高まっていることを実感する機会となりました。



研修中の講義では初の試みで神戸市在住の外国人に参加していただき、災害に対する認識を深めてもらう目的でオープンセミナーを実施しました。講師には神戸大学都市安全研修センターの大石教授に土砂災害の種類や「土砂災害警戒区域」の危険性を過去の土砂災害事例の映像を交えて説明いただきました。情報過疎になりがちな外国人の方々に災害について認識を高めていただく機会となり、参加された外国人の方からは「災害ハザードマップ」

の英語版のリクエストや気象情報も日本語だけではわかりにくい、などの感想があり今後も多くの外国人の方々へのこのような取り組みは需要が高いと思われます。

そして、研修中盤には東日本大震災から4年が経とうとしている被災地を訪れました。研修員たちは事前に講義で被災地の状況を知っていたのですが、実際に被災地を訪れて、ご自身も被災されご家族が犠牲になった方々から当時の様子を聞き、それは壮絶で想像を絶するもので、言葉を失っていました。震災から4年近く経った今でもまだまだ震災が残した爪痕は深く、映像で見たもの、記事で読んだもの、だけでは知りえなかった、被災地に行ってみると、感じたことは、研修員の心にも強く響いたようです。ここに来て、お話を聞いたことは大変意義深いものとなりました。東日本大震災では多くの尊い命、財産が失われましたが、そこから残された教訓は、世界各国の人々の心に深く刻まれていることと思います。

また、1854年安政の大地震津波時の「稲むらの火」で知られる濱口梧陵の偉業と精神、教訓を学び受け継いでゆくため誕生した和歌山県広川町「稲むらの火の館」を訪れました。命の

火で多くの村人を救った彼の功績は、現代に通じる津波防災の象徴として広く語り継がれています。ここに併設されている「津波防災教育センター」では近い将来起こるといわれている南海トラフ地震にそなえ、津波災害から命を守る「応急」、「復旧」、「予防」の3つの知恵を学ぶことができました。同じく和歌山県田辺市の津波避難タワーや、避難スペースを視察し、人々への防災啓蒙活動や防災意識を高める取り組みがされており、多角的な防災アプローチを自治体よりご説明いただきました。「防災」に対する人々の興味を惹き、関心を高め、災害に対する平常の備えの大切さを知ってもらうため、各地では多種多様な防災活動が開発されています。



この他にも、研修指導機関である神戸市消防局の職員はもちろんの事、数々の子供向け防災イベントを実施する NPO 法人プラスアーツ代表、インドネシアで海外初の防コミを立ち上げたガジャマダ大学教授とのテレビ会議など研修では活動経験豊かな講師陣を迎え、神戸市で行われる防災活動を紹介しました。数々の講義・視察を通じ、研修員は防災について多角的に学ぶと同時に、過去の被災経験を活かし、一人でも多くの命を救いたいという日本の防災に対する力強い想いを感じ取っていただけたのではないかと思います。



研修最終日のアクション・プラン発表会では、19名の研修員全員が、日本で学んだ内容が自国にとっていかに有用であったか、そしてそれを自国でどのようにして実践していくかについて発表しました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員が日本滞在中に得た知識・経験をそれぞれの自国におけるコミュニティ防災推進活動に活かし、一人でも多くの人が災害から守られることを期待しています。

研修担当：馬場 愛子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：神戸市消防局予防部予防課

講義/視察先：内閣府/本所防災館/ガジャマダ大学(インドネシア)/神戸学院大学/和歌山県広川町/和歌山県田辺市/神戸市消防局/神戸市民防災総合センター/神戸大学/関西学院大学/魚崎町防災福祉コミュニティ/若鷹市民消火隊/(社)南三陸町観光協会/人と防災未来センター/SEEDS Asia/NPO 法人プラス・アーツ/FM わいわい/

【順不同、敬称略】



国名：フィリピン  
名前：Ms.GANUB Jovencia Bete  
所属：ボホール州 衛生室 行政官

It's been an honor and privilege to have been accepted to this one of a kind training course sponsored by JICA, KIC and the Kobe City Fire Bureau. My first ever training conducted with such precision, punctuality and accuracy. My salute to all the organizers of this training: Ms. Fukiko Gotouda, Program Officer, JICA Kansai Disaster Reduction Learning Center; Fire Lieutenant Nobuhito Ohtsu, Community Disaster Prevention Support Team of the Kobe City Fire Bureau; Ms. Aiko Baba and Ms. Chisato Tango, Program Coordinators, International Training Division of KIC, and to Ms. Mayumi Shirahata and Ms. Miyuki Ishibashi, Training Coordinators who have provided us with excellent translations and assistance throughout the duration of the Training.

All the Lecturers came so prepared and answered all our questions and clarifications with high degree of professionalism. We've been to so many places and it's always so heartwarming to be received by the communities with warmth, sincerity and friendliness. The BOKOMI organizations we have visited are very inspiring, who despite their age, they are very active and willing to let us experience the drills. I had an up-close and personal experience with

the communities of Kobe during the Outdoor cooking and to me, this makes Kobe City very unique among the rest of the Cities of Japan – its people.

Our trip to Tohuko was extraordinary as we were exposed to recovery and rehabilitation efforts after a disaster. It was so depressing and unthinkable seeing all the ruins however, I was so humbled by the admirable positive spirits of the communities towards recovery. They have lost some of their family members, and yet this did not deter them to tell us what they went through during that frightful afternoon of March 17, 2011. Their desire to share us their stories, no matter how painful it was for them was so overwhelming. What hit me was their emotional and psychological strength and stability to speak again and again of what happened and what lessons they've learned from the disaster including Family relationships, that we should always endeavor to maintain close communication with our family members because we would not know when disasters would hit. Moreover, instead of complaining, the communities remain patient, trying to live each day with new hopes, very inspiring! They are a good example of resilient communities.

On the other hand, the Wakayama Prefecture trip is a perfect example of disaster preparedness both in infrastructure and education/drills (Hirogawa-cho and Tanabe City). The story of the “Fire of Rice Sheaves” was so moving. It made me realize that even during the 19th Century, disaster preparedness, quick response and recovery were already practiced through the examples of Hamaguchi Goryo (Gihei). The seawalls built through cash for work so people can still continue to live each day after the disaster stood firm, un-wavered by the threats of disasters.

This Training has not only enriched me with knowledge, but it has also awakened in me the deep sense of responsibility to introduce and work on the establishment community-based disaster risk management in my Province, Bohol and hopefully the entire Philippines to achieve disaster resilient communities, espousing self-help and mutual help.

Thank you JICA and all the Japanese people!



最初に JICA、神戸国際協力交流センター、神戸市消防局によって実施されたこの研修に参加させていただき大変光栄に思っております。この様に綿密に構成された研修は初めてでした。JICA 関西の皆様はじめ、神戸市消防局、神戸国際協力交流センターの皆様には敬意を表します。また研修期間中、通訳とたくさんのサポートをしてくださった研修監理員のお二人にも感謝を申し上げます。すべての講義は事前準備がされ、私たちの質問にもすべてご丁寧に答えていただきました。私たちはいろいろな場所を訪れましたがいつもその土地のコミュニティの方々には快く温かく、誠実に迎えてくださりました。防災福祉コミュニティの皆様にはとても刺激を受けました。防災福祉コミュニティの方々には年齢に関わらず活動的で私たちを訓練に参加させていただきました。神戸では人々を身近に感じることができました、この経験が私にとっては日本の中でも神戸の人々はとてもユニークだという印象を持ちました。

東北訪問は、災害から立ち直る努力、復旧を目の当たりにし、とても印象深いものとなりました。多くのものが破壊され、想像を絶する悲しみだったでしょう、しかし復旧に向けてコミュニティの人々の前向きさには大変心打たれました。被災者の中には家族を亡くされた方もおられました。私たちに 2011 年 3 月 11 日に起きたことすべてをお話してくださいました。経験されたこととお話することはとても辛く、察するに余ります。

最も心を打たれたのは、彼らの辛い経験（家族関係を含め）、何度もお話して下さったことは、いつ災害にあうかわからない私たちの家族関係を見直す機会を与えて下さったと思います。さらには、彼らは不平を言わず、我慢強く、希望を持って毎日を生きており、とても刺激を受けました。彼らは回復力のある強い力をもった素晴らしいコミュニティの良い例だと思います。

一方、和歌山県広川町、田辺市への視察はインフラ整備、教育、訓練において災害対策の素晴らしい事例だと思います。「稲村の火」のお話はとても感動的でした。19 世紀半ばの濱口梧陵の行動から、災害に対しての心構え、準備、災害時の早い対応、復旧がいかに大切かを実感することとなりました。労働対価による支援により建てられた防潮堤は人々の生活を助け、災害の恐怖におびえずにいらることができました。

この研修で私の知識を高めただけでなく、私の出身地ボホール洲に防災福祉コミュニティを紹介し、設立する重要な責任を担っていることを改めて実感しました。また、フィリピン国内に自助、共助の重要性を認識した災害に強いコミュニティの確立を成し遂げられるよう願っています。JICA はじめ日本の皆様、ありがとうございました。



国名：アンティグアバーブーダ  
名前：Mr. Mullin Fillmore Glasford  
所属：国家災害対局室 室長

I would like to thank JICA, KIC, the Kobe Fire Services, and also the Government and people of Japan for allowing me the opportunity to train in Japan and to meet and interact with the people.

I was very impress with the level of professionalism on my arrival, but especially the helpful nature of the people I came into contact with. The course facilitators made it very easy for me to adjust and the lecturers were all very knowledgeable of their subject areas, and were able to answer the many questions put to them. This course was extremely timely for me since my country has been seeking to enhance its community disaster management programme it allowed me the privilege to learn about the Japanese community disaster programme. from which, communities in my country will benefit. The training, observation and material received will be a great asset to improving the community's disaster programme in my country.

The visits and interaction with member of the BOKOMI's in and around Kobe was most important, this gives us the privilege of very important discussions and exchange of experiences. This part of the training inspires me to get more people of age and the young involved in the community disaster management programme. I enjoyed the many formal and informal discussions I had with the people of Japan, underneath the formal well structured focus

on work, school and other activities the Japanese people enjoyed life and living with family well being at the centre of their lives. Let me say a very special thank you to all involved for the experience, the enhance knowledge and the benefits that my country will enjoy as a result of this JICA training opportunity. (Dōmo Arigatō gozaimasu).



この度は日本で研修を受ける機会を与えてくださり、日本の方々と出会い、関わることができ JICA、神戸国際協力交流センター、神戸市消防局、そして政府に大変感謝しております。日本到着時からプロ意識の高さ、特に人々の心からの親切心に感銘を受けました。コースのファシリテーターは講義を理解しやすいものにし、豊かな知識を持って私の質問にも答えていただきました。現在、防災福祉コミュニティプログラムを強化しようとしている私の国にとってこの研修はとてもタイムリーなものであり、日本で学んだことは有用なものとなるでしょう。講義、視察、研修材料は私の国での防災コミュニティプログラムを向上させるための素晴らしい財産です。

神戸内外の防コミメンバーの方々との関わりの中で、意見交換や経験談の共有は最も重要でした。ご年配から若い方まで防災福祉コミュニティプログラムに参加されており、刺激をうけました。日本の人々とは仕事に関わる話や、ご家族と日ごろ楽しまれているプライベートなお話についても楽しくお話することができました。最後に、この研修の機会を与えてくださった JICA と日本の皆様に感謝の意を申し上げます。そしてこの研修で得たことは必ず私の国にとって有用なこととなるでしょう。

ありがとうございました。